

大宇陀道の駅観光案内図について

長らく、地元有力者と大宇陀町（現宇陀市）の横暴により、大蔵寺が望まない観光行楽が推進され、元々観光に全く対応していない大蔵寺は、我が物顔の写真家や観光客によって秩序が崩壊し、法人運営が行えない状況となっております。

大蔵寺が望まない観光推進の最たる事例が、大宇陀道の駅にある観光案内掲示板に、大蔵寺の許可無く観光地として大々的に記載されてしまったことです。

大蔵寺が、どんなに観光客の受け入れが出来ない状況である事を説明しても、この行政が設置した観光案内掲示板に大蔵寺が記載されてしまっている以上は、これを根拠に強硬に観光権利を主張する観光客に抵抗する事が出来なくなっております。

過去において、これについて抗議をしたところ、大蔵寺は文化財を所有していることから、行政の観光案内に大蔵寺を掲載すること、大蔵寺は文化財を所有しているので観光化は拒めない事、そして行政には文化財施設は自由に掲載する権利がある事とされ、この抗議は受け入れてもらえませんでした。

これについて奈良県文化財保存課に確認した所、文化財所有者にそのような義務と、行政にはその様な権利は無い事を示されました。

令和5年3月23日、宇陀市観光課に「大宇陀道の駅」の観光案内掲示板に記載されている大蔵寺について、再度対処を求めたところ早急に対処して下さい、大蔵寺は一般の方の入山が出来ない旨を補足記載して下さいました。

現在の宇陀市観光課は、大宇陀町時代や市町村合併直後とは違い、地元有力者との付度は無く、大蔵寺の申し入れを聞き入れ、当日に対処をして下さりました。

以前に比べ、だいぶ少なくはなりましたが、地元有力者や観光利益を得ようとする一部の者の利権によって、大蔵寺は望まない観光化を強いられ続けてきました。

この問題の全てはまだ解決はしておりませんが、今後も大蔵寺はこの様な事に精力的に対処をしていきます。

大宇陀道の駅観光案内図に関しましては、早急に対処をして下さった宇陀市観光課に感謝致します。



令和5年3月24日撮影